

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成30年度第3回相模原市立図書館協議会		
事務局 (担当課)		相模原市立図書館 電話：042-754-3604 (直通)		
開催日時		平成31年3月19日(火) 午後2時30分～午後5時		
開催場所		相模原市立図書館 2階 視聴覚室		
出席者	委員	8人(別紙のとおり)		
	その他	2人(生涯学習課担当課長、同主査)		
	事務局	9人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他5人)		
公開の可否		<input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input checked="" type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		人選案件のため		
会議次第		<p>1 議題</p> <p>(1) 次期相模原市図書館基本計画について</p> <p>(2) 次期相模原市子ども読書活動推進計画について</p> <p>(3) 平成29年度図書館事業評価について</p> <p>(4) 平成31年度の予定について</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 報告</p> <p>(2) その他</p>		

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局等の発言)

### 1 議 題

#### (1) 次期相模原市図書館基本計画について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

【資料1-1】図書館協議会における今後の予定

【資料1-2】課題の整理・次期計画における方向性

- 資料1-2の初めに、図書館の現状整理から、「これからの図書館に求められる視点」として課題が抽出されている。ただし、これらはあくまで全国的な課題であり、相模原市として取組が必要な視点については、3ページ以降の「本市図書館の課題」を参照しながら本協議会においても検討し、重点項目や優先課題のような形で意見が出せれば良いと考える。例えば、資料中で触れられていない視点の1つとして、相模原市の広い市域に対するサービスの展開が挙げられる。これまでも課題としてきたと思うが、次期計画の中でも課題として捉えていくことが必要ではないか。

資料1-2の3ページに「本市図書館の課題」の1つとして、利用が減少していることが挙げられているが、必ずしも悪い側面ばかりではないように思う。例えば、4ページで分析されている利用状況を見ると、ネットワーク社会の進展等により、予約・リクエスト受付件数は増加している。来館を伴わないサービス利用は、図書館システム更新による機能の充実により、今後一層増えていくと考えられる。図書館に来館することと、図書館サービスを利用することを分けて捉える視点が必要であり、来館とサービス利用を別に考えることで、後者を積極的にアピールできるのではないか。

資料1-2の6ページ「地域の情報拠点、課題解決支援」の項目では、「これからの図書館がどうあってほしいか」という市政モニターの設問が紹介されているが、「家庭・生活上の知識を得る場」「地域活動の支援や拠点として利用できる場」といった、身近な情報に対するニーズが数字として表れている点は興味深い。これに対しては、地域や生活に密着した公共図書館ならではのサービスが展開できると考えられるので、地域について十分に把握しながら、丁寧にサービスを展開してほしい。

また、同ページにある「交流・人材育成」の項目中の「大人向け事業が少ない」という指摘について、海外の公共図書館で、ちょっとした知識を得るような講座を行っている事例があった。大きなイベントではなくても、家庭や生活上必要な知識を提案できる場の1つとして継続的に取り組むことで、市民が図書館事業に

参加するきっかけづくりにつながると考えられる。

- 広い市域に対するサービスの展開については、本市特有の課題と捉えており、市政モニターアンケートにおいても図書館が近くに無い、図書館に行くのが不便という意見が多かった。全市的な図書館サービスとして、十分に図書館サービスが及んでいない地域や利用者に対して、どのようにサービスを届けるかが次期計画の大きな課題と考えている。利用の減少については、今後より深く分析していきたい。
- 市政モニターについては、図書館の未利用者も含めた幅広い市民の意見を聴取していると思われるが、新たな利用者を取り込むことも、課題整理の中で取り上げていくのか。
- 幅広い取組という観点からは、より利用者のライフステージに寄り添った情報提供があって良いと考えている。例えば、蔵書の並べ方についても、ライフステージを意識した配置にするなどの取組が考えられる。
- 資料1-2の5ページに、高齢者の傾向として、70歳ぐらいまで働くことを希望する方が多いとあるが、このような傾向も踏まえ、ライフステージに寄り添った事業を展開するという点で捉えて良いか。
- 世代ごとの状況も踏まえながら、ライフステージの各段階において、得たい情報により分かりやすくマッチするような資料の提供方法や、サービスの提供方法について、次期計画の中で検討していきたい。
- 利用者の減少は、図書館の使い方も変化してきているということであり、そのような状況で図書館施設自体も変化を求められていると思うが、市域が広い中では、シンボリックな館が1箇所あれば良いということではないと考える。例えば駅や公民館など、地域にある図書館以外の場所に、図書館が管理する小さなネットワークの拠点があり、そういった様々な拠点を中央図書館がコーディネートし、広い市域をカバーできるようなシステムを考えていく必要があるのではないか。
- 広い市域をカバーするという点について、他市の事例では、例えばサービスポイントを増やす、宅配又は郵送サービスを行う、移動図書館を使うなど、様々な手法を組み合わせながらサービスを全域に広げる努力をしている。

本市においても、事例を参考にしながら、市域の広さに合ったサービスを検討していきたい。また、前回の協議会においても指摘があったように、図書館だけではなく、市長部局等の施設や情報を使いながらサービスを展開することも必要と考えている。
- 利用の減少が悪い側面ばかりではないとはいえ、利用が多いにこしたことはなく、市民が行ってみたい、活動してみたいと思うような活動拠点作りは重要だと思ふ。その意味で、市域の広さを逆手に取るならば、本市の場合は例えば公民館との連携は、現状でも実施しているが今後も検討していくべきだと思ふ。

また、海外では、図書館がコミュニティセンターと合築のような形で展開され、蔵書は多くないものの、住民の居住地に点在しているような事例があった。その事例が最適解ということではないが、市域に対するサービスの展開の方法は色々考えられると思う。

さらに、市域の広さに着目すると、地域について市民自身も実は知らない側面が多いのではないかということも、興味深いテーマになり得ると考える。それぞれの地域について、お互いが知る機会を作るといった情報サービスの展開によって、市内での交流や移動を活性化させることが、ひいては市の活性化につながるのではないか。

- 施設別の利用状況を見ると、公民館等図書室は図書館よりも貸出冊数の減少率が少なく、地域の身近な図書室として利用が定着していると捉えられる。例えば、図書館の蔵書の活用により、公民館等図書室の蔵書が刷新できたら、図書室に来館する利用者も増え、図書館・公民館双方で良い循環が生まれる可能性があるのではないか。その他にも、様々な連携をしていきたいと考える。
- そのことに関連して、フローティングコレクションという考え方がある。返却された本を所蔵館に戻すのではなく、返却された館にそのまま配架する仕組みで、例えば公民館等図書室に返却された本は同じ地域の他の住民も利用する可能性があったり、自分が返した本を別の人に薦めたりできるといったことが考えられる。資料の管理がたいへんだが、このような仕組みを活用している自治体もあり、公民館等図書室の蔵書のあり方は様々だと思うので、色々なやり方を検討いただきたい。
- 図書館から距離が遠く、来館するのがたいへんな地域もある一方で、図書館システムにより指定した拠点で資料を受け取ることができるのは便利だと思う。大型絵本等の特殊な資料については、所蔵館で貸出・返却を行なう決まりだと思うが、条件がクリアできれば、利便性が確保できると良い。

また、図書館や図書室全体で見れば資料がたくさんあり、調べればすぐに見つけられるということも、周知する工夫があれば良いと考える。
- 財政状況等が厳しい中で、図書館について知識を一方向的に消費するという視点で考えるだけでは、様々なニーズが拡大していき、どのようなサービスを展開すれば良いか絞りきれないのではないか。利用する側へ、図書館を利用する意義を啓発していくことも必要ではないか。
- 資料1-2の7ページ等で挙げられている学校との連携は、具体的にはどのような取組を想定しているのか。
- 現状では、職場体験や調べ学習の受入、学校図書支援セットの貸出及び配送、団体貸出等を実施している。

次期子ども読書活動推進計画に関する学校へのアンケートでは、資料の不足や、

資料に関する情報提供のニーズが挙げられていることから、図書館の資料を学校で活用してもらう仕組みなどを想定している。

#### 【資料 1 - 4】中央図書館機能について

- 1 ページで、「図書館 3 館を中心に、中央図書館として担うべき機能の検討や課題の整理等を行なってきた」とある。検討や整理の過程における調査の中で、他の地方公共団体の図書館で、特に中央図書館のあり方について、参考や目標になりそうな事例があったならば教えてほしい。
- 政令指定都市の図書館に対しては、計画の進行管理や選書、図書館システムなどの項目について、照会による情報収集を行った。また、直近では、資料の集中的な選書という観点から、町田市立中央図書館を視察した。
- 中央図書館を持つ自治体において、どのような機能を中央図書館機能とみなしているのか、整理してみるのも今後の検討材料の一つとなるのではないかと。  
また、2 ページで挙げられている、現体制における 3 点の課題については、いかに人材を育て、活躍できる体制を築いていくのかということに直結する。その意味で、企画立案できる人材が複数名いて、企画・推進機能の強化を検討できる体制になっていることが重要であると感じた。
- 中央図書館は、各拠点を支える役割が大きいのか、それとも図書館等をリードし、市図書館全体を活性化する機能に重点を置くのか。
- 両方の機能を持つものと考えている。
- 3 図書館では、現在民間事業者に窓口業務等を委託していると承知しているが、財政的にも厳しく、業務委託という制限もある中で、サービスを充実させていくことは可能なのか。
- 中央図書館における企画・推進機能の部分は、際限なくサービスを拡げることではなく、市全体の財政状況等を踏まえ、より効果的なサービスを選択していく機能を持つと考えている。  
また、企画運営に係る業務については、委託業務ではなく市職員が実施しており、サービスの充実や効果的な選択も含めた企画・推進機能について、今後検討していくべきものと考えている。
- 今後機能を整理していく中で、市職員が業務を担う部分についても、整理し直すという認識で良いか。
- 中央図書館機能としては、現在持っていない新たな機能が加わることになる。市職員が業務を担う部分と、業務委託をすることで効果が見込まれる部分について、今後の検討の中で整理していきたい。

#### (2) 次期相模原市子ども読書活動推進計画について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

- 次期子ども読書活動推進計画に関するアンケートの実施結果は、図書館のことを考えるのにも、今後参考にしていくものと考えて良いか。
- 次期図書館基本計画における、子どもに関する施策につながるものと考えている。
- 図書館には乳幼児とその保護者、高齢者は多いが、小中学生の世代の来館が少ないと感じている。図書館に足を運ぶにも、忙しくてなかなか時間が無い子どもたちの読書を推進していくために、図書館と学校との連携によって、本と子どもたちとをつなぐ工夫ができるようになると良い。
- アンケート結果では、学年が上がるに連れて読書冊数が減るということだが、保護者の読書傾向に関する調査項目はあるか。親子で読書を楽しむ年齢から、年齢が上がるに従って徐々に家庭の中での読書の時間が減っていくのではないか。  
子どもの読書離れの背景には保護者の読書離れも影響しており、保護者の読書活動の推進も重要と考える。
- 関連する調査項目としては、図書館の利用目的の中の「自分の本を借りる・返す」という回答があるが、直接的には尋ねていない。また、読書推進に必要なことという調査項目では、本を読んでもくれる人が身近にいる、本が身近にあるといった回答が多かった。
- 学校では、全国学力・学習状況調査における課題に向けての取組や、外国語教育の導入、夏休みの短縮による授業時間の確保などの動きがあり、読書になかなか時間が取れないのが現状である。そういった子どもたちの置かれている状況を理解しないと、解決には結びつかないと考える。一方で、子どもたちに接していると、本や読書が好きということは強く感じる。
- 学校の中だけで読書の時間を考えると、代わりに何を削るかも含めて考えることになる。朝読書から一日をスタートさせる学校もあるが、各学校で何を大事にするかという考え方によるものなので、別の活動を重視している学校では、必ずしも朝読書を行っているわけではない。  
学校の枠だけではなく、一日の生活全体の中で読書の時間が取れるかどうかだと考えるが、部活や塾などで忙しい時間を過ごしている子どもたちにとって、読書が好きで時間を生み出そうとする意欲が無いと、なかなか難しいのではないか。
- 今後、図書館協議会としては、次期子ども読書活動推進計画にどのように関わっていくのか。
- 地域や学校など、計画に関連する団体等に意見を伺い、様々な視点を取り入れながら方向性を定め、計画の素案をまとめて行きたいと考えている。素案がまとまった段階で、協議会の場でも意見をお伺いしたい。
- 協議会の場で意見を出すことはもちろんだが、素案を個別にいただいたうえで、委員の一人として意見を述べる機会があると良いと考える。

- 承知した。

### (3) 平成29年度図書館事業評価について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

- 資料3では事業評価シートの案とあるが、今後どのような取扱いになるのか。
- 今回の協議会の意見を反映させた上で、案を取って平成29年度の図書館事業評価とさせていただきたい。

### (4) 平成31年度の予定について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

質疑なし。

## 2 その他

### (1) 報告

#### ・ 淵野辺駅南口周辺のまちづくりについて

3月2日に行われた、第1回次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会について、生涯学習課から資料に基づき報告した。

なお、生涯学習課の報告の前に、図書館協議会に市民検討会への委員推薦依頼があったことについて、鈴木会長から委員選出の経過等の説明があった。

また、有識者協議会に参加した小山委員と、市民検討会に参加した高柳委員から、次のとおり報告があった。

- 有識者協議会の一員として検討会に参加したが、非常に熱心な検討が行われたと感じている。淵野辺にゆかりがある方が多く参加されており、その意味で淵野辺への地域愛が深く感じられた一方で、淵野辺にはあまりゆかりが無い方も加わることによって、外から見た淵野辺についても多くの意見を共有できたのではないかな。

また、3つのワーキングを混在させた形で意見交換をしたため、第1回目で交流が図れたという点では、成功だったと感じている。

本協議会からは高柳委員が市民検討委員として参加されているので、協議会としての意見を伝えたり、フィードバックをいただいたりと、協議会、図書館とも密に連携を図りながら、中央図書館機能を実現させるための市立図書館のあり方についても、今後議論できるのではないかと期待している。

- 早々に初対面のメンバーでグループワークが行われた時、初めは委員の皆さんも何を発言すれば良いか戸惑っている様子だったが、大学生の方が口火を切って

くれたおかげで、すぐに積極的な意見が出てきた。

各グループの発表内容が重なる部分も多く、それだけに淵野辺の街への想いがあるのだと感じた。今後は、駅周辺を歩いたり、施設を見学したりということを予定しているようなので、考えるだけではなく、街の様子を肌で感じながら、街づくりに協力ができたらと楽しみにしている。(委員が欠席のため、事務局が報告)

- ・ **事業報告及び館報発行報告（平成30年11月～2月末）**  
資料配布のみ行なった。

**【「(2) その他」から非公開】**

以 上



相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役 職	氏 名	所 属 等	出欠席
1	会 長	鈴 木 良 雄	専門図書館協議会事務局	出 席
2	副 会 長	高 柳 眞木子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	欠 席
3	委 員	金 井 秀 夫	相模原市立中学校長会	出 席
4	〃	大 西 輝 佳	相模原市立小学校長会	出 席
5	〃	藤 嶋 直 司	相模原市公民館連絡協議会	出 席
6	〃	金 子 友 枝	相模原市社会教育委員会議	欠 席
7	〃	小 山 憲 司	中央大学文学部教授	出 席
8	〃	井 狩 芳 子	和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
9	〃	三 木 涼 子	公募	出 席
10	〃	水 田 繁 生	公募	出 席